

ばってん

事務長会報第48号

令和2年10月1日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎西高等学校内

〒852-8014

長崎市竹の久保町12-9

電話 (095) 861-4770

願い… — 2020年 夏の終わりに —

会長（長崎西高等学校）中町 雅典

令和2年8月15日「終戦の日」。黙祷を終え、全国戦没者追悼式の中継を見ながら、夏が静かに過ぎてゆくを感じていた。私の中で夏はいつも、8月9日「長崎原爆の日」で盛りを迎え、「終戦の日」「精霊流し」とともに過ぎゆき、秋の小さな足音が聞こえてくる。長崎に生まれ育った私には、そのような夏の季節感（イメージ）が、いつの間にか自然と意識の中に刷り込まれているのかもしれない。

ただ、今年の中継ではいつもの夏と違う、まさに年初からの出来事が色濃く現れた会場の様子が映し出されていました。会場の日本武道館、その広々としたフロアには、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、1mずつの間隔を保ち、マスクを着用して整然と着席する参列者の姿がありました。中継の映像では分かりませんが、会場の換気を徹底するなど「3密」防止や、飛沫感染予防のため、国歌も斉唱は行わず演奏のみとするなどの対応がとられたとのことでした。

天皇陛下のお言葉では、「過去を顧み、深い反省の上で、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い…」と述べられる一方で、新型コロナウイルスの感染拡大の現状を「新たな苦難に直面している」としたうえで、「私たち皆が手を共に携えて、困難な状況乗り越え、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います」と述べられました。戦没者追悼式の天皇陛下のお言葉に戦没者以外の話題として、現在の課題に触れる段落が加えられるのは、極めて異例で、コロナ禍に苦しむ国民への思いが伺えるとの解説がされていました。

いま、新型コロナウイルスによる急速な感染拡大（第1波・第2波）が世界中を席卷し、今夏、我が国で開催される予定であったスポーツの祭典「東京オリンピック・パラリンピック」が、1年後に延期という過去に例のない対応をとることとなったほか、あらゆる大会やイベント等が中止、延期、規模の縮小などを余儀なくされる事態となっています。

この新型ウイルスを短期間で消滅させるのは困難であり、この先、数十年にわたって「共存」していくことを

考えておく必要があるとも言われています。

今年は、私たちが経験したことのない、これまでの生活様式をはじめ、常識、風習や伝統、スポーツ・文化といったものまでもが、予期せぬ大きな変革を迫られる、まさに世界が短期間で様変わりしてしまう、そんな年になりそうです。

県内でも各地でクラスターの発生が確認されており、各学校では文部科学省・県教育委員会の通知に則り、「新しい生活様式」の実践による感染予防等への配慮を行いながら、授業や行事等が計画・実施されていると思います。

姿の見えない脅威とどう対峙し、効果的な感染予防を行うか、様々な教育活動に制約がかかることで生じる閉塞感をいかに払拭し、子どもたちが前向きな気持ちで学習に取り組める環境を確保するかなど、課題は山積みです。

我慢すべきところは皆で我慢し、知恵を出し合い、協力しながらこの難局を乗り越えて行きましょう。

コロナ禍の先行きはまだまだ不透明で、この文章が広報紙に掲載される10月の時点で、学校がどのような状況下にあるのか全く予測ができませんが、収束に向かって着実に推移していることを心から願っています。

町内会で流す精霊船の出発を告げる爆竹と鐘の音に促されて、冷房の効いた部屋の窓を開けると、強い日射しの熱気を帯びた午後の風と焼けた火薬の匂いが、ほんの少し秋の気配を纏って入ってきます。ここに居て、風や音や匂いから感じることができるのは、いつもの年と何も変わらない夏の終わりの季節感なのです。



定年を迎えて

長崎南高等学校 今村 伸郎

若いころは、定年後はのんびりした日々を送れるのではないかと漠然と考えていましたが、現実はなかなかそうもいきそうにないなあと思う今日この頃です。

昭和60年4月に、大崎高校の昼間定時制に配属されました。以来、勤続36年。うち県教委で19年、学校では、五島商業（現五島海陽）、長崎南、佐世保西に勤務し、それぞれいろいろな仕事に携わりましたが、それぞれの職場でたくさんの方にお世話になりました。感謝しかありません。

この間、仕事道具も和文タイプからワープロ、パソコンへ、元号も昭和から平成、令和へと変わりました。あつという間でしたが、意外と長い年月だったんだなと思っています。

今年は、新型コロナウイルスが世界中を襲い、東京オリンピックは延期され、緊急事態宣言まで出され、様々な行事を自粛するという、初めて体験することばかりの年でした。これまでのあたりまえの生活がどれほど贅沢だったのかを、今しみじみと感じています。

最後の4年間を、長崎港を一望できる丘の上に立つ、長

崎南高校の事務長として勤務させていただき本当にありがとうございました。南高は、平成14～16年度に主任として勤務し、また、二人の子ども卒業させていただいた、とても愛着がある学校です。

今年はコロナの影響で、南高生の多くの活動が、様々な制約を受けざるをえなかったのが少し残念です。南高に限らず、生徒たちが生き生きと学校生活を送ることができる日々が早く戻るよう願っています。

最後に、これまで数々のご迷惑をおかけし、そのたびに助けていただいた皆様、何とかここまでたどり着くことができました。心より感謝申し上げます。



【南高から望む長崎港】

感謝

希望が丘高等特別支援学校 松尾 せい子

退職の日が近づいてまいりました。

1985年に長崎県学校事務職員として採用され、最初の赴任校は西彼杵郡高島町（現在は長崎市）の高島高等学校でした。長崎港の南西約14.5km沖合に位置する周囲6.4kmの炭鉱で栄えた島です。軍艦島で知られる端島も高島町に属します。

今思えば買い物等不便ではありましたが、島内の公舎に住み海を眺めながら通勤し毎日を長閑に過ごしていました。



時には、事務長さんの手料理が昼食時に事務職員にふるまわれたり、魁の先輩が手計算・手書き・タイプライターの時代に個人所有のワードプロセッサ（出始めです）を貸し

てくださったり。

ところが、赴任して一か月も経たない4月24日、島中にサイレンが響き渡りました。坑内火災（粉塵爆発事故）が発生したのです。その後高島炭鉱は下降の一途をたどることになります。翌年の11月には閉山となり、住民は職を求めて島外へ、その子である生徒たちは次々と転学していきました。さらに、募集停止となり、1989年3月には閉校しました。

その1年前に私は異動しましたが、船での別れはさびしいものでした。生徒たちの不安げな表情が忘れられません。彼らの消息を知る機会はありませんが幸せに暮らしていることを願ってやみません。30年以上も前のことなのにここでの3年間の日々は鮮明で、いまでもつい最近のこのように思い出されます。

この職に就かなければ、行く機会はなかったかもしれない土地もありますし、自分の能力以上の多くの貴重な経験をさせていただくこともなかったでしょう。多くの方々に守られ支えられ何とか退職の日を迎えられそうです。出会った皆様には感謝しかありません。ありがとうございました。

「明るく 強く 豊かに生きる」

長崎特別支援学校 宮原 しおり

久しぶりの学校勤務、しかも新任事務長として、そして初めての特別支援学校。緊張の4月です。長崎特別支援学校は小学部から高等部まであり、小学部29名、中学部18名、高等部13名の計60名は重度の重複障害を持っています。中には、気管切開や胃ろうなど医療的ケアが必要な子どもたちも多くいます。実際に子どもたちに会った時は驚きと戸惑いを感じてしまいました。この子たちはこんなに大変な状態なのに学校で一体何を学ぶのだろう。

授業中、事務室前の廊下や階段で歩行や車いすを自分で操作するなどの訓練を行っている様子を目にします。いい

よー、すごいね、がんばれーと大きな声で励ます先生の声も聞こえます。教室からは楽しそうな音楽や子どもたちの声、そしてまたまた先生方の励ます声。時々事務室にも見学と称して遊びに来てくれます。一体どんな授業をやっているの？と覗きに行ったこともあります。顔と名前が一致してくるとその子たちの個性もだんだん見えてきます。会話はできなくてもきらきらした目と豊かな表情で感情が伝わってきます。きついだらうな、と思う訓練を生き生きと頑張る姿に元気をもらえます。毎日の様子から、子どもたちが学校で生活習慣や体力を身に付け、他者とふれあい、「明るく強く豊かに生きる」力を育てている（本校の教育目標）ということを実感しています。

「生きる力」に一生懸命な子どもたちのために、また、大切な我が子を学校に送り出す保護者の信頼のために、何

ができるのだろう。細心の注意を払いながら心身ともに支え、見守り、励まし、指導している職員のためには何が出来るだろう。まずは、子どもたちが安全に安心して学校生活を送れるための環境を充実させていくことを心がけながら、これから模索していきたいと考えるコロナの夏です。

追記 狭い狭い施設の問題はアイデアも出し尽くされて「どこでもドア」でしか解決できそうにありません。どなたかドラえもん連絡先ご存じないですか？



この夏から本校に仲間入りした『ザリガニのひいちゃん』。子どもたちや職員のアイドル。

平凡だけど非凡な日々

猶興館高等学校 小浦 小百合

4月から猶興館高校に新任事務長として赴任しました。本校は、県下の県立高校で最も古く今年創立140周年を迎えます。本校の校名「猶興」の由来は、「孟子曰く、文王を待ちて後に興る者は、凡民なり。夫の豪傑の士の若きは、文王無しと雖も猶ほ興る。」孟子のことばで自立自発を説いたものです。

明治13年から長い歴史のある高校の事務長としてプレッ



シャーを感じながら新年度が始まりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するための緊急事態宣言を踏まえ、4月22日から臨時休校、行事も研修会もすべて中止・延期となりました。高校総体も中止、PTA総会も書面で行うことになり、今まで当たり前に行っていたことができない状況となりました。生徒のいない教室から見える平戸の海がとても美しく、コロナ禍が信じられないような光景でした。

あるとき、事務室の日めくりカレンダーを何気なく見ると、「平凡なことを毎日平凡な気持ちで実行することがすなわち非凡なのである」と書いてありました。毎年当たり前のようには仕事をしていましたが、これからは変化に対応していくようにしないとイケないかと思い、今できることから取りかかることにしました。

もともと色々変更が苦手な私ですが、そうも言ってもらえない年齢になりました。まだまだ今後どうなるか予想がつかない状況ですが、「うつさない、うつらない」で行動していきたいと思えます。

事務長会もコロナのためできない状態が続いていますので、皆様に会えないまま、この文書を書いています。今後教えていただくこともたくさんあると思えます。先輩方のご指導よろしくお願いたします。

平戸市はとても景観の美しい場所です。お魚も美味しいですよ。コロナ禍が無くなりましたら、ぜひおいでください。

五島南高校に赴任して

五島南高等学校 小島 克孝

6月中旬、S工業高校のH事務長から「ばってん10月号」の原稿依頼の電話がありました。「ばってん3月号」を何気に読んでいたものの自分に依頼が来るとは思っていなかったので、何を書こうかと考えていたらあっという間に締切が迫っていました。

4月に五島南高校の事務長になって約5か月が過ぎました。五島南高校は、昭和25年に五島高校岐宿分校として開校し、昭和42年に独立し現在に至っています。私は昭和41年生まれですのでほぼ同い年です。福江港から北西へ車で約30分、山と川と田んぼに囲まれ、自然が豊かで美しくホッとさせるような場所にある、現在生徒数77名、教職員25名の小じんまりとした学校です。校訓は「誠実」「努力」「積極」で生徒たちは明るく、まじめで、人懐っこい印象です。

五島は初めての勤務になりますが、海や山が大変綺麗です。福江島の西側の海岸には、東シナ海の荒波が削りだした海蝕崖が壮観で、大瀬崎の断崖、嵯峨島の火山海蝕崖などの景勝地があります。また、鬼岳から望む星空は素晴らしく綺麗で、今年のペルセウス座流星群は家族と一緒にゆっくり鑑賞することができました。島全体の景観が大変

美しいこの五島をこれからもっともっと楽しみたいと思っています。

さて、事務長になって思うことはその職の存在感です。「長」という字を辞書で引くと（ちょう、なが、おさ、はじめ）、社長、座長、首長、長老など長のつく方々はその世界の重鎮、権威のある方々・・・その存在感に負けない様に、まだ未熟な部分も多々ありますが、生徒たちのために事務長としてできる事を精一杯やらせて頂こうと思っております。

先輩事務長の皆様方にはお世話になるかと思いますが、ご交誼ご指導をよろしくお願いたします。



「事務長（事務局長）先生」の存在感

長崎県高等学校長協会 会長 鶴田 栄次
長崎県立長崎東中学校・高等学校 校長

この4月に長崎東中学校・長崎東高等学校の校長となり、併せて長崎県高等学校長協会の会長となりました鶴田栄次と申します。どうかよろしく願いいたします。

最初に、長崎県公立学校事務長会の皆様には、日頃から各学校の教育活動の円滑な実施に多大な貢献をいただいておりますことに心からの敬意と感謝を表したいと思います。特に、今年2月頃から続いている新型コロナウイルス感染症への対応では、例年になく様々な対応が続いております。その中で、手洗い用石鹸や消毒液などの確保から、「新しい生活様式」に対応した備品の購入など、事務長・事務局長さんを始めた事務室の皆さんの適切な業務遂行がなければ、学校運営は成り立たない状況であると考えています。さらには、コロナ以前から計画がなされていたGIGAスクール構想の実現など、事務室には大変ご苦勞をおかけするものと思います。コロナ禍の収束にはまだ時間がかかりそうですので、事務室の皆さんのお力を得ながら、「新しい学校生活」を共に創っていきたくて考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

ところで、事務長・事務局長さんは、勤務する学校で「先生」と呼ばれていますでしょうか。「事務長先生」です。校長は「校長先生」、教頭は「教頭先生」なので、事務長も「事務長先生」と呼ぶのは論理的な思考ではあるようです。私自身は「事務長さん」、「事務局長さん」と呼びます。「先生」を付けるのは何か変な気がしています。校長だからどちらでもいいと言えばそれまでですが、教頭時代も「さん」付けでした。その理由を私なりに考えると、2つあります。昔、県教委時代、ある教育長が、学校訪問をして、「教育長先生」と呼ばれると、非常にばつの悪い顔をされていたということ（確かに、教育委員会で教育長は「教育長」としか呼ばれない）。さらに、ある課長が、「指導主事は学校を懐かしんでそれぞれを「先生」を付けて呼んでいるが、ここは行政だから「〇〇先生」とは呼ばずに「〇〇指導主事」と呼びなさい」といった指示が出され、その後お互いを呼ぶ際は、「〇〇指導主事、電話です」などと、努めて意識して呼び合っていたこと（しかしながら、当の課長さんが、5メートル離れたところから「〇〇せんせーい、ちょっと」と呼ん

でしまい、班員全員が憤慨したといった思い出もおまけにあります）。逆に、校長となった今では、職員室で先生を「〇〇さん」と呼んでしまい、反省してしまいます。

事務長・事務局長さん自身は、「先生」と呼ばれ、どんな気持ちになるのでしょうか。無邪気な生徒が呼ぶのはさておき、教員から敬意を込めて「先生」と呼ばれているのですから、まあ、気にせず受け止めてください。私も、校長として支えていただいた事務長・事務局長計3名の方には一方ならぬご苦勞をおかけしました（進行形もあり）ので、敬意と感謝の念を片時も忘れてはいません。校長は、教頭経験はあっても事務長は経験できない（法令上できないこともない）のと、校長になると物理的にも一番近くにいる管理職であることから、大変頼りになる存在です。この会誌が発行される頃は、各学校は修学旅行をどうするかで結構悩むことになると思います。海外は言うまでもなく国内でも大変厳しい状況の中で、どんな判断をするのか非常に難しくなると思いますが、事務長・事務局長の視点からのご意見は貴重なものとなりますので、どうかよろしく願いいたします。

今年度後半はコロナ関係予算の執行で一層忙しくなるのではないかと推察しております。免疫力低下を招かないよう、体調には十分ご留意の上、各学校でのご活躍を祈念しております。また、「アフターコロナ」になった時の事務長会教育懇談会を楽しみにしております。



編集後記

今年は新型コロナウイルスによって生活が大きく変わりました。学校は3月に臨時休業となり、卒業式・入学式・PTA総会等学校行事の短縮・縮小・中止等が相次ぎました。

生徒たちも、臨時休業に加えて、高体連・高文連大会が中止となり、体育祭・文化祭等にも影響があります。校内では、感染予防のためのマスクの着用、消毒、換気等いつもと違う学校生活を過ごしています。特に、3年生はこれから進学・就職へ向けて大切な時期を迎え、不安な気持ちでいることと思います。

しばらくはこのような状況が続きそうですが、生徒たちの安全・安心な学校生活のため、自分ができることをやっていきたいと考えます。

今回、鶴田校長先生をはじめ、中町会長、今年度で御退職される方々、そして新会員の方々に執筆をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。

今後も引き続き皆様のご協力とご指導をよろしくお願ひします。

(K・H)